

また、参加者の皆さんと沢山の繋がりが持てたことは、今後の財産となることは言うまでもありません。

これからも、この素晴らしい学びの場であり、かつ出会いの場

でもある本ゼミナールが末永く続き、多くの方々が、出会い・学ばれることを祈念致します。

(東燃ゼネラル石油(株) 松本 伸)



第41回経営ゼミナール及び第10回経営ゼミナール講演会を終えて

● 本会の動き ●

☆第4回上席化学工学技士交流会に参加して☆

去る2015年11月11日大阪科学技術センターにて、第4回目となる上席化学工学技士交流会が開催されました。今回は、新たな参加者こそありませんでしたが、関東、東海、関西、中国地区から上席化学工学技士9名、化学工学会人材育成センター資格制度委員会顧問である、大阪大学名誉教授の平田雄志先生、化学工学会人材センター担当者の2名を加えて計12名が参加しました。まずは、平田先生より、化学工学資格制度に関するご報告および来年の化学工学会81年会に予定されている、「プロフェッショナルは語る」～化学工学技士(基礎)の集い～、についてのご説明がありました。まだ立案段階とのことでありましたが、企業トップによる講演やインターンシップ報告会、交流会等が企画されており、化学工学技士の資格保有者や、今後の取得を目指す学生の皆様に参加したくなるプログラムにするとともに、企業側の人事担当者にも参加頂く事で、両者の交流を図る機会を設けるといった仕組みづくりの工夫が盛り込まれる計画ですので、本プログラムへの積極的な参加、呼びかけをお願いします。

続いて、(株)カネカの古川龍二氏より、「自らの業務経験とそこから考えた人材育成について」の題材で、「課題を自ら見つけ出させて解決させる人材育成方法」や教育プログラム等について話題提

供いただき、参加者全員でフリーディスカッションを行いました。人材育成は各社それぞれ工夫を凝らした取り組みを行っているものの、その方式や育成度合いの評価等に悩みも多く、様々な意見交換がなされました。海外経験は、いろいろな経験が積めるため個人のスキルを成長させる貴重な機会であると考える一方、個人による価値観の違いや、家族の問題等もあり、海外勤務を希望する若手が減少しているといった意見も出されました。また、新入社員の配属希望に対しては、本人の希望を取り入れつつも、「最初は現場(製造部門)に配属し、製造における課題を理解させる」取り組みが多く報告されました。その他、「1～2年のエンジニアリングに関する基礎や専門の集中教育」といった取り組みの報告もありました。

次に日本におけるケミカルエンジニアの地位を考える参考として、AIChEによる米国内外で働くエンジニアの給与状況調査結果を題材として議論しました。米国におけるケミカルエンジニアの高評価、それに見合う所得を得ている実態に対して、日本のエンジニアの評価は決して高い状態にあるとは言えず、日本におけるケミカルエンジニアの地位や評価の向上のために、化学工学会として取り組むべき活動について様々な意見が出されました。議論が白熱し、予定した時間内では足りず、恒例のように会場を懇親会に移し、引き続き忌憚のない意見交換を行いました。

本交流会も回を重ねるごとに、ますます議論は活発となり、参加者から本音の意見を聞く事ができる場となっております。今後も年2回程度の上席化学工学技士交流会を計画する予定ですので、多数の方々の参加をお待ち申し上げます。

(住友バークライト(株) 河口竜己)